

1. 評価結果概要表

作成日 2008年7月31日

【評価実施概要】

事業所番号	4272200041
法人名	株式会社 グループホームおくら
事業所名	グループホーム おくら
所在地 (電話番号)	長崎県五島市奥浦町1321-8 (電話)0959-75-4500

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成20年4月3日	評価確定日	平成20年8月19日

【情報提供票より】(19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年9月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	9/8 人	常勤	6/5人, 非常勤 3/3人, 常勤換算 7.7/6.7 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造平屋造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	250 円
	夕食	350 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	5 名	要介護2	6 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 84.9 歳	最低	72 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	井上内科小児科医院、聖マリア病院、長滝歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広大な敷地の中に高齢者施設と共に2棟の平屋建てのホームが建ち、花壇にはアジサイが芽吹き、菜の花畑が広がり、季節の花が咲き乱れ裏手の山は新緑の樹々が風にそよいでいる。花作りが好きなご利用者の為に「自分の花壇」があり、朝から帽子・ゴム手袋・花鋏を手にし、草を抜いたり花を間引いたりご利用者は活き活きとされている。常に最新・最良の介護を目指し「地域の為に此処はある、困っている人がいたら出来る事をする」と云う強い思いの下、バス停に立っている方をお見かけしたら声掛けして対応したり、ご利用者の事を思い今日を精一杯楽しく過ごせるように、考える余裕・ゆとり・工夫をしニーズを引き出せるようにと会議の中で伝え続け、個別的なケアが出来たらという思いが職員の中に芽生えてきており、全体的にケアの質が向上し幹部と職員の距離が縮まってきている。ケアマネジャーが職員とのパイプ役となり互いに意見交換を深めており、アイデアや施設に関する具体的な意見も出てくるようになりつつある。ご利用者の思いや行動の背景を理解し職員が出来る事、ご利用者が今出来る事を意識してケアするよう指導を続け、より良いケアへつながっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) ①排泄誘導等を行う際に否定的・指導的な言動をした後に職員自身で気付き、ご利用者の自尊心・羞恥心に配慮した言葉使いを意識して一人ひとりのケアに真剣に取り組んでいる②声掛けを工夫しながら時間をかけてお誘いラジオ体操に参加して頂いたり、ご希望をお聞きしながら外出の機会を出来るだけ作っている③調理の下ごしらえ等ご利用者が出来る事をして頂いたり、食材の色合いや器、盛り付けの工夫をし食事を楽しめるような支援をしている
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 専務は管理者に「毎日1ページずつ見ていけば・・・」と伝え、専務長が職員へ自己評価・外部評価の説明を行い、職員と話し合った結果を管理者がまとめた。全職員が評価の目的・活用方法等の理解や、評価を通して振り返りにつながっているとは言い難い状況であるが、前回評価結果に基づき改善策をユニット毎に検討し、意識して取り組み少しずつ変化してきている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 6ヶ月毎に開催し前回来議で頂いたご意見に対する取り組み状況や、取り上げて欲しい議題の要望をお聞きし、ご利用者のご家族全員に会議をお知らせしているが参加は少ない。夜間の火災発生時の連絡体制についてのご意見を頂き、マニュアルや連絡体制を整えた。市からは「法人事業所全体の行事一覧等でいろいろな提案をしては」と、アドバイスを頂いており「おくら元気だより」を持って、意識して窓口にお伺いし事業所の活動内容や、要望や現状等を口頭でお伝えしたり情報交換している。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) “ご家族の方が本音を言われていないのでは”“本当の気持ちが届いているのか”専務長は不安な思いがあり、電話・写真・ホーム便りで年に数回報告しており、来訪時は職員・ケアマネジャーが報告したり、体調についてや変化等は都度お伝えしている。H.17からユニット毎に家族交流会が開催され、ご利用者と一緒にご家族に昼食を食べて頂いたりレクリエーションを行い、交流の場を通して「不満がないか聞いて頂けませんか、何か言われていませんか」と、ご利用者のご家族に漏らされるお叱り等をお尋ねし、本音をお話して頂けるよう積極的に関わっている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 神社の大祭で敷地内に神輿が来たり、小・中学校や校区運動会、秋の文化祭ではご利用者のちぎり絵の作品等を公民館に展示し、見学してご利用者は活き活きとされている。法人全体の敬老会・クリスマス会等の行事を、地域の方にご案内して来て頂いたり、保育園児のお遊戯や小・中学生や地域の歌謡クラブ、老人クラブ等の訪問交流を行っている。ホーム開設当初より自治会に入り専務が出席し、小・中学校の入学式・卒業式や発表会、敬老会等に参加し写真を撮ってお配りしたり、地域の花見のお誘いを受けたりしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	五島で生まれ育った会長は「地域住民のお役に立ちたい」と永年、市議を務められた。高齢者が多い事や地域に貢献したいという思いでホームを設立され、法人理念の“住み慣れた町で”を基に開設時に、職員と話し合い介護理念を作ったが、H.19.5に“地域社会の中でその人らしく”と云う地域密着型サービスとしての理念を膨らませながら、ユニット毎の介護理念を作りケアの拠所としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ユニット毎に毎日介護理念を唱和し目指す事は一致しているが、本部と現場の開きを主任は感じており、毎月の会議で一方通行にならないよう職員の意見・考えを聞き、専務やケアマネジャーから理念に照らし合わせて伝えている。ケアの在り方についてケアマネジャーが助言しているが、言葉かけ・ケアの方法で未だ職員間の差は感じられるが、一方のユニットではご利用者に対して何かしたい、個々のニーズに応じてこのように出来るのではと実践を始めている。	○	現在作成中の‘自己申告表’を早期に完成させ活用しながら、言葉かけやニーズに応じたケア等‘もう少し出来るのでは’と云う部分を、職員の目標として会議で伝えると共に、日々の現場で具体的に指導を続けていきたいと考えている。職員の思いを伝えられる場としての会議の中で、仕事への基本姿勢・倫理についても伝えながら、理念の深い意味を理解し目指す方向を一つにして、更に取り組みを続けられる事に期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	神社の大祭で敷地内に神輿が来たり、小・中学校や校区運動会、秋の文化祭でご利用者のちぎり絵の作品が展示され見学に行った。法人全体の敬老会・クリスマス会等の行事を、地域の方にご案内して来て頂いたり、保育園児のお遊戯や小・中学生や地域の歌謡クラブ、老人クラブ等の訪問交流を行っている。ホーム開設当初より自治会に入り専務が出席し、小・中学校の入学式・卒業式や発表会、敬老会等に参加し写真を撮ってお配りしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	専務は管理者に「毎日1ページずつ見ていけば・・」と伝え、事務長が職員へ自己評価・外部評価の説明を行った。職員が自己評価票を記入する事はなかったが、話し合った結果を管理者がまとめた。全職員が評価の目的や活用方法等の理解や、評価を通して振り返り等につながっているとは言い難い。前回評価結果に基づき改善策をユニット毎に検討し、改善計画書を作成し意識して取り組んでおり、少しずつ変化してきている。	○	今後は全職員で自己評価に取り組んでいこうと考えており、評価項目を具体的に説明し、項目毎の深い意味を理解し職員と共に評価していく事で日々の振り返りや、目指す方向を一つにしていく事にもつながっていくと考えられる。今後の取り組みに期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者・ご家族、市職員、地域の方に参加して頂き6ヶ月毎に開催している。前回会議で頂いたご意見の取り組み状況や、取り上げて欲しい議題の要望をお聞きし、ご利用者のご家族全員に会議をお知らせしているが参加は少ない。夜間の火災発生時の連絡体制についてのご意見を頂き、連絡体制図を作成しマニュアルを整備した。市からは法人事業所全体の行事が解るような一覧や、連携を深めて行く為の提案をしてはと、アドバイスを頂き行事予定表を作成した。	○	参加者の出席しやすい曜日や時間、季節毎の行事に合わせた開催等を検討しながら、回数を増やしていきたいと考えている。会議の中に勉強会を組み入れたりしながら、会議に足を運んで頂く為の方法や、個人情報の保護等について検討され、会議記録に出席者名や発言者名の記載等、取り組まれる事に期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の方とは行き来しやすい雰囲気、事務長が“おくうら元気だよ”をお持ちする等、意識的に窓口に向い事業所の活動内容を口頭でお伝えしたり、有料老人施設の空き状況等の情報を交換している。地域住民の現状や要望等をお伝えしたり相談し、状況に応じて対応して頂いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	‘預かってもらっている’という思いがご家族にあるのでは、本音を言われていないのでは、本当の気持ち職員に届いているのか事務長は不安に思っている。遠方のご家族には事務長が電話・写真・ホーム便りで年に数回報告し、職員・ケアマネジャーがご家族来訪時に定期受診・体調変化等その都度お伝えしている。ケアプラン送付時に暮らしぶりについてお伝えしたり、毎月金銭出納簿のコピーをお送りしたり、ホーム内で異動した職員を紹介している。	○	ユニット毎にカメラを準備し誕生日や行事の時等、その時々のご利用者の様子を写し、行事案内やホーム便りをお送りする時に、写真等でお伝えできる部分について取り組みを考えている。電話で定期受診の結果や健康状態をお伝えする時に、暮らしぶりについても報告したり自宅訪問等も検討し、直接お話する機会等を作りご家族等への報告を更にこまめにされ、本音を言って頂けるような関係になっていく事に期待していきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ユニット毎に家族交流会を開き殆どのご家族が参加され、ご利用者と一緒に昼食を食べて頂いたりレクリエーションをし、交流の場を通して「不満がないか聞いて頂けませんか、何か言われていませんか」と、ご利用者がご家族に漏らされる眩き等をお尋ねし、本音をお話して頂けるよう積極的に関わっているが、特に最近のご意見等はない。ご意見を頂いた時は本部を含め対応策を職員と共に話し合い、職員連絡ノートに記録を残している。	○	今後ご意見箱の設置等を考えており、苦情・不満・ご意見を頂いた時の専用ノートを作る等、情報を共有し運営に反映出来るよう、更なる取り組みに期待していきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	会長は職員に対し、‘62歳の定年後も皆さんが元気で仕事ができるなら、頑張ってください’と話しており、基本的に異動は行わないが、時に適性等に応じてユニット間の異動をする事がある。休みの希望に極力応じて個人面談等の必要時は本部が面接を行い、専務やケアマネジャーが業務の中で話を聞いている。職員の気持ちを引き出していきたい思いはあるが、個別に悩み等の面談の実践は出来ていない。職員交替時はご利用者の状況に応じて説明の仕方を変えたり、出来るだけ従来のケアと変わらないように、新規職員へ情報提供・指導を十分に行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自治体・協議会主催や、身体拘束・虐待防止、専断について等の研修会に参加し教材のお知らせ、資料の掲示・回覧を行い、ユニット毎に会議の中で研修報告や伝達研修を行うと共に、受講歴に記入し意識も向上し参加の機会が増え、受講状況は良くなってきている。会長に相談しながら個人面談の実施や自己申告表による育成計画も検討しているが、技術・意識の差があり現場での注意や指示等、専務長・専務から管理者・ケアマネジャー・ユニット主任・職員個々に伝えている。	○	ホームとして職員に求める事を明確にし、今後、個人面談や自己申告表により職員が受講したい研修や目標・希望を書けるようにする事で、自己啓発を心掛ける事につながると考えられる。今後の更なる取り組みに期待していきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	専務は同業者との交流・連携の必要性を認識し、積極的に取り組んでおり、職員は五島市グループホーム連絡協議会のケアプラン報告会や勉強会に出席している。専務・事務長が他グループホームの相互訪問や、電話等での情報交換・相談や、ネットワーク協会から各施設の空き情報等、即時に見れるよう社会福祉協議会にお願いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	宅老所からの入居も多くなってきており、専務・ケアマネジャーが病院や宅老所、自宅に伺い看護師や職員等から情報を得ている。隣接の通所介護を利用してケアマネジャーと顔馴染みになっていたり、比較的スムーズに生活に馴染んでいる。ご家族からの説明で入居に対しご理解されている方が多く、入居後は環境に早く馴染んで頂けるよう事前に情報を伝え、ご家族に頻りに訪問して頂いたり「家族が心配されるので元気がってから帰らしましょう」と声かけに配慮している。	○	入居前の自宅訪問等は介護職員がお伺いし、ご本人にお会いしたほうが良いのではという思いはあるが、時間的に難しい部分もあり、ご家族や職員と時間調整を行い、直接ご本人・ご家族とお会いして入居に備えてホーム側で準備する事等を整えたいと考えている。職員が同行できる方法等、今後検討を重ね、ご本人の安心と納得を大切にしたい支援に期待していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ひよこ草や人参の葉等、使える食材やホームの辺りは昔は海だった事、農作業や五島の昔の風景、妊娠中の職員に「腹帯の祝い」やつわり、布おむつの頃の苦労話等をご利用者に教えて頂いている。ご主人の事を話される時もその事が悲しみに結びつく方や、子供の夜泣きを相談して「あんたがせんぼ」と叱られたり、休日明けに「なごらんかったね」や「疲れとるんね、体大事にせん」とや、夜勤の時に「寝てくらはれ」と気遣って頂き、職員が支えられていると感じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「元気でいたい、テレビを見て過ごしたい」等、ご利用者の思いや暮らしへの望みを十分に把握できていない方もおり、意思疎通が難しい方や「行きたい所」等、言われない時は受診の帰りに寄り道をしたり、その瞬間・瞬間を楽しんで頂いている。ご利用者の行動・表情から思いを汲み取ったり、生活習慣・趣味等が詳しく解らない方もおられ、入居してから習慣や趣味等を探し続け、職員間で話し合いを繰り返して一人ひとりの思い・希望・意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用者一人ひとりの生活習慣・思い等を踏まえ『その人らしく暮らし続ける』為の、個別・具体的な課題・目標や『地域で暮らす』視点が、記載されていない方もいる。行動障害を表す言葉や馴染みまれている言葉に置き換えたり、行われているケアが全て計画に盛り込まれておらず、ご利用者・ご家族の意向等も「お任せします、いいです」と、言われる事が多くご家族の気付き等が反映されているとは言い難い。協力医療機関の医師等に相談しながら、職員と話し合いを基に計画を作成している。	○	短期目標の設定を「〇-〇までは維持します」等、少し具体的にすることを取り組みやすくなる。行われているケアについても具体的に訓練方法や回数等を記載したり、ご本人がする事・している事、ご家族がする事、職員が支援している事を手順書として作成する事で、出来る事が増えていく事にもつながり、その時々に出てくる事や変化が記録として残る。職員の意見も更に盛り込みご利用者本位の計画となるよう、更なる取り組みに期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	退院される時の計画は入院前から比べて状態の変化があった時に、ご家族に電話したり口頭でお伝えするだけになっており、計画にまでは落とし込めていない。ご利用者・ご家族のご要望や状態変化が生じた時に計画を見直す事もあるが、設定した時期まで行わない事もあり、臨機応変な計画の見直しは行っていない。ご要望・状態に変化が見られないご利用者についても、月に1回程度は全利用者の検討を行っている。	○	退院後の環境変化により安全面でのリスクも高まり、ご本人の不安も大きくなってくると考えられる。入院中よりお見舞いに伺った際等に、情報収集をし退院を前にして暫定の計画を立てる等、現状に即した計画の見直しに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ユニット内や隣接事業所の看護職員にいつでも相談できる体制で、事業所間の連携も出来ている。ケアマネジャーが通院介助しご利用者の状況を的確に医師に伝え、入院中はお見舞いに伺い情報収集を行いながら早期退院につなげている。理髪店やフェリー発着所、外泊時の送迎等の支援をしている。地域の方がバス停で待っている時に声をかけ病院までお連れしたり、祈祷を受けられる方の送り迎え等、日々の暮らしの中で対応できる範囲での支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望の医療機関をお聞きし、以前からのかかりつけ医で受診し健康状態を的確にお伝えし、信頼関係が築けている。気になる事は看護職員に相談し早めに受診して健康状態を維持し、受診結果は変化がある時は速やかに報告し、変化がない時は来訪時にお伝えし、必要に応じて紹介状を書いて頂き適切な医療が受けられるよう支援している。ご家族が通院介助をされた時も結果をお聞きし、全利用者について十分把握できている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応方法についてはほぼ全利用者の意向の確認は出来ている。地域性もあり終末期は病院を希望されるご家族も多く、自信がないと云う職員の思いや医師の体制、ホームとしての準備も整っていない事もあり看取りの体制は取っていない。重度化した時には福祉施設の紹介や申し込みの支援等、早い段階から関わっている。急変時の対応について全利用者・ご家族と話し合いを行っている。	○	職員に対する看取りの研修や、医師・職員との話し合い等を行いながら準備を整えていき、ホームでの看取りのご要望がある時には、対応していけるよう検討していきたいと考えており、今後の取り組みに期待していきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご利用者が馴染まれている方言を使う事もあるが尊敬の念を持って接し、誘導の声かけ等も自尊心・羞恥心に配慮している。ご利用者の記憶違い・思い違いに対し時に否定したり、指導的な言動をしている事があり、相手の反応を見て言っはいけない事に職員は気付いている。人が聞いたらどうなのだろうかと、言葉使い等を意識しながら考えながら取り組み、ケアの振り返りを行っている。個人情報保護法について全職員が理解し、情報の漏えい防止に努めている。	○	気になる言葉を全職員で一緒に考えながら、ご利用者にとってはどうなのか等を突き詰めている段階で、ご利用者の自尊心に配慮し常に意識していけるよう、今後の取り組みに期待していきたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムが取れるよう日課等の声かけ・誘導は行いが、ペースを尊重し無理強いせず、ちぎり絵等をカタログで頼んだり、体調に応じてご自分が好きな事や編み物をしたりしながら、ADLや認知度が維持できている。何もせずに寝たきり・座りっぱなしになりがちなご利用者には、声を掛ける際「○さんが出ているから、出てみませんか」「気分が良くなったら」と時間をかけてお誘いし、ラジオ体操やレクリエーションに参加して頂いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者のご希望をお聞きしながら献立に採り入れたり、野菜の根切りや下膳、食器洗いや食器拭き・片付け、テーブル拭き等して頂いている。職員も一緒に食卓につき必要な介助を行ったり、希望による粥食や体調により他利用者と調理法が異なる時も、色合いを考え器や盛り付け方の工夫をしている。菜園の無農薬の野菜を収穫し旬の物を採り入れたり、時折、外に和食を食べに行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間帯・回数がある程度決めているが、必要に応じシャワーや希望があればいつでも入浴出来る状態で、ほぼ希望通り対応出来ている。体調に無理のない範囲で入っている時間や順番等、ご利用者の好みに合わせた個別対応や、一人ずつ入浴して頂いたりタオルで前を隠す等、羞恥心に配慮し気持ち良く入浴して頂く為の工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	切干大根を天日干しに並べたりツツ採りや、ミナ採りに行き貝の身出し等、得意な事をして頂き‘ミナ御飯・ミナ汁’を作ったり、食べる事・風呂へ入る事やちぎり絵等の楽しみ事や、おしぼり巻きや新聞のゴミ袋折り、レクリエーションの時に歌の先生等の役割を持って頂いている。もう少し出来そうかなと思ながらも職員が手を出しているように感じる時や、業務を優先し手を出している時もあり、管理者は職員が気付くよう注意し、ご利用者の力を活かした支援をしていく。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご利用者の行きつけの理髪店や海・野山・花を見に出掛けたり、磯遊びや海藻採り、ミナ採りに行っている。移動スーパーで生鮮食品・洗剤やティッシュペーパー等の日用雑貨を買ったり、昼食後のドライブ等、ご利用者のご希望をお聞きしながら、日常的に外出している。外出が困難な方々も気分転換や五感刺激の為に、戸外で過ごして頂くようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上21:00～6:00迄の夜間帯に施錠する以外は、自由に出入り出来るようになっており、ご利用者一人ひとりの生活習慣や落ち着かなくなる時間帯・傾向・原因を把握し、事前の対応策を取っている。ご利用者が1人で外出された時も見守りを行ったり、併設施設の職員に協力して頂いている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災を想定した避難訓練を職員・ご利用者・消防署と共に行い、自動通報装置により職員の連絡体制は出来ており、夜間の協力体制等について‘火災発生生時の対応マニュアル’を作成し、地域の消防団・町内会長へ応援を依頼している。地理的に台風災害時を想定して懐中電灯・ラジオを準備し、有名な湧水を飲料水として利用できると考えており、食料品等については五島市からの支援や、地域の方々から応援を頂ける予定であり数日間はそのぐ事が出来る。	○	消防署や消防分団とも連携しながら夏・秋の年に2回、定期的に避難訓練の実施を予定しており、ご家族や地域の方にも参加して頂く等、今後の協力体制の強化に期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の好みに合わせたり食べたい物をお聞きし、食材を変えたり献立に採り入れたりおやつを選んで頂き、土の中の作物から葉先迄の野菜を一日の中で全て使う、魚を一日に一回使う事等、食事のバランスを考えている。食事量を記録し必要な飲水量の確認をし、退院時は管理栄養士から指導を受け食事例を写真に撮り参考にしたり、他方では書籍等を参考に献立を作っているが、コレステロール値が上昇傾向にあり油分が多いのではと気になっている。	○	カロリーの過不足や偏りを防ぐ為に定期的に、管理栄養士から献立のチェックをしてもらい、一日全体を通じた食事量・バランス等の助言を頂きながら、個別の食の支援に更に取り組みされる事に期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	散歩に行った時に花壇の花を摘んできたり、ご家族の方に持って来て頂いた花を飾り、ホールの広い壁は季節感を取り入れた飾り付けを行っている。大きな日めくりや対面式の炊事場があり、窓の外には洗濯物がはためき、日常の生活が繰り広げられご利用者それぞれが思い思いに過ごしている。常に換気に配慮し空気よどみや異臭もなく天候等により照明の調節をする等、きめ細かく環境調整をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人・ご家族と相談しながら、以前から使われていた足踏みミシンや箆笥・鏡台・藤椅子・テレビ・冷蔵庫・電話や目覚まし時計が、さりげなく雑多に置いてあり独居の方の住まいの感がある。希望により畳を敷いたり、お仏壇・お位牌・遺影等を持って来られている方や、車椅子を利用されている方は使っていた杖を、家族の方に持って来て貰い部屋に置いている。ご利用者が作ったちぎり絵、パッチワーク、事務長が賞を取った日の出の写真を貰って飾ったり、大正琴や譜面等も持って来られ時々弾かれている。		